

3. 事業概要

(1) 常設展示

常設展示室は全体で5室の構成となっている。第1室は「山梨の文学風土」と「樋口一葉」コーナー、第2室は「山梨出身ゆかりの作家と作品」、第3室は芥川龍之介コーナー、第4室は飯田蛇笏・飯田龍太記念室、第5室は山梨出身・ゆかりの作家104名をジャンルごとに年2回入れ替えて紹介している。

常設展示室の第1～4室は、下記のとおり春夏秋冬にあわせて年4回、一部の資料の入れ替えを行い、第1室の一面にコーナーを設け、前後期の期間限定で資料を公開した。また、平成25年2月26日～3月17日にかけて、全国文学館協議会共同企画「文学と天変地災」の一環として、第一室で井伏鱒二「旧笛吹川の址地」原稿などの展示を行った。資料一覧には、この期間中、出品された資料すべてを提示した。

- ◆春の常設展 平成24年3月27日(土)～6月17日(日)
期間限定公開 井伏鱒二「本日休診」原稿 3月27日(火)～5月9日(水)
芥川龍之介の回覧雑誌「日の出界(文事の光)」「曙光」「木兎」 5月10日(木)～6月17日(日)
- ◆夏の常設展 6月19日(火)～9月9日(日)
期間限定公開 太宰治「陰火」原稿 6月19日(火)～8月3日(金)
芥川龍之介「河童」草稿 8月4日(土)～9月9日(日)
- ◆秋の常設展 9月11日(火)～12月2日(日)
期間限定公開 伊藤左千夫他アララギ派歌人短冊貼り交ぜ屏風 9月11日(火)～10月24日(水)
鏑木清方「大黒屋の美登利」軸装 10月25日(木)～12月2日(日)
- ◆冬の常設展 12月4日(火)～平成25年3月17日(日)
期間限定公開 森嶋外「灰燼」原稿 12月4日(火)～平成25年1月30日(水)
室生犀星「かげろふの日記遺文」原稿 1月31日(木)～3月17日(日)

第1室

山梨の文学風土

甲斐のうた (パネル展示)

酒折の宮／塩の山・差出の磯／都留の郡／甲斐の牧

松尾芭蕉と甲州

杉山杉風「芭蕉翁馬上吟図」軸装〈複製〉 原本 天理大学附属天理図書館蔵
松尾芭蕉 森川許六宛書簡 元禄5年11月13日 軸装〈複製〉 原本 個人蔵
高山麿埒 一瀬調実宛書簡 年不明12月19日〈複製〉 原本 個人蔵
猪来編『蓑虫庵小集』文政7年自序〈複製〉 原本 天理大学附属天理図書館蔵

甲州の紀行文

深草元政『身延道の記』元禄17年刊
荻生徂徠『徂徠集』卷之十五 元文元年序文「峡中紀行」収録
賀茂季鷹『富士日記』文政6年刊

甲府学問所 徽典館

甲府勤番支配宛 徽典館学頭任命通知書
乙骨耐軒「維新亭齋詩初稿」
乙骨耐軒「甲役途中詩」

国学を学んだ人々

萩原元克編『甲斐名勝志』天明3年9月刊
萩原元克「うまひとの」短冊
本居宣長点 辻守瓶「春十首」和歌

樋口一葉（ひぐち いちよう）

馬場孤蝶「一葉の住みし町なり夕時雨」幅
樋口一葉「本郷五丁目」草稿幅
鏑木清方「たけくらべ絵巻」画稿控
新五千円札（A000006A番）
青海学校小学高等科第四級卒業證書
吉川学校下等小学第八級卒業証書
一葉愛用の筆立て
一葉愛用の髪飾り・櫛・こうがい
一葉旧蔵 短冊ばさみ
写真パネル 母多喜・奈津（7歳頃）・姉ふじ・妹くに 本郷6丁目5番屋敷時代
写真パネル 左から次兄・虎之助、父・則義、長兄・泉太郎
樋口虎之助作 薩摩焼絵付皿
写真パネル 萩の舎集合写真
写真パネル 半井桃水
写真パネル 竹内桂舟 画「うもれ木」第7回挿絵
写真パネル 文学界同人
「文学界」1895（明治28）年1月〈複製〉
樋口一葉「闇桜」未定稿〈複製〉原本 台東区立一葉記念館蔵
「武蔵野」第1輯 1892（明治25）年3月 今古堂
仕入れ帖 1893（明治26）年8月〈複製〉
樋口一葉「たけくらべ」原稿〈複製〉
「文芸倶楽部」第2巻第5号 1896（明治29）年4月
映画「たけくらべ」パンフレット 1955（昭和30）年 新東宝
樋口一葉「ゆく雲」未定稿〈複製〉
「太陽」第1巻第5号 1895（明治28）年5月
写真パネル 一葉女史の碑建碑の日 1922（大正11）年10月15日
幸田露伴「一葉女史碑」碑文下書き原稿
幸田露伴「一葉日記の後に書す」原稿
樋口一葉 樋口くら宛葉書 1896（明治29）年5月13日〈複製〉
樋口一葉 樋口重兵衛宛葉書 1896（明治29）年5月19日〈複製〉
樋口一葉 伊庭隆次宛書簡 1892（明治25）年7月28日〈複製〉

第2室

井伏鱒二（いぶせ ますじ）

井伏鱒二「花にあらしの」幅〈複製〉
井伏鱒二「仲秋明月」幅〈複製〉
井伏鱒二「歓酒」対幅〈複製〉
井伏鱒二・奥山麿「送状 水門町八大酔我等大酔 奥さん叱る勿れ」額装
寄せ書き 井伏鱒二「送状 本日水門町共に飲みました 叱らないで下さい」
奥山麿「人の気も知らないで」額装
井伏鱒二「わたくしは平凡な言葉を好きな人間になりたい」額装
映画「黒い雨」ポスター
写真パネル 栃代川にて 飯田龍太と 1963年4月16日
「文藝都市」1929（昭和4）年5月
井伏鱒二『山椒魚』1976（昭和51）年9月 成瀬書房
井伏鱒二「旧・笛吹川の趾地」原稿〈複製〉
井伏鱒二「波高島」原稿〈複製〉
井伏鱒二『侘助』1946（昭和21）年12月 鎌倉文庫
井伏鱒二『黒い雨』1966（昭和41）年10月 新潮社

愛用の釣り竿と魚籠

井伏鱒二『小黑坂の猪』1974（昭和49）年7月 筑摩書房

井伏鱒二『岳麓点描』1986（昭和61）年4月 弥生書房

井伏鱒二「大月の岩殿山」原稿

井伏鱒二『ドリトル先生アフリカ行き』1941（昭和16）年1月 白林少年館出版部

井伏鱒二『ドリトル先生のサーカス』1952（昭和27）年1月 岩波書店

井伏鱒二『ドリトル先生の郵便局』1952（昭和27）年6月 岩波書店

井伏鱒二『ドリトル先生月へゆく』1955（昭和30）年12月 岩波書店

井伏鱒二「頓生菩提」原稿（複製）

太宰 治（だざい おさむ）

写真パネル 石原家の人々と 1939（昭和14）年元旦

写真パネル 太宰と妻美知子の結婚式 1939（昭和14）年1月8日

太宰治文学碑「富士には月見草がよく似合ふ」（表面）拓本幅

太宰治文学碑 撰文（裏面）拓本幅

太宰治 井伏鱒二宛書簡 1938（昭和13）年10月25日消印（複製）

太宰治『女生徒』1939（昭和14）年4月 砂子屋書房

太宰治『右大臣実朝』1943（昭和18）年9月 錦城出版社

太宰治「陰火」原稿（複製）

太宰治 浅見淵宛葉書 1940（昭和15）年6月21日（複製）

太宰治 浅見淵宛書簡 1935（昭和10）年11月22日（複製）

太宰治『虚構の彷徨 ダス・ゲマイネ』1937（昭和12）年6月 新潮社 新選純文学叢書

太宰治「ア、秋」原稿

太宰治「ヴィヨンの妻」原稿（複製）

太宰治『ヴィヨンの妻』1947（昭和22）年8月 筑摩書房

太宰治「斜陽」原稿（複製）

太宰治『人間失格』1948（昭和23）年7月 筑摩書房

太宰治 井伏鱒二宛書簡 1936（昭和11）年9月日不詳

「若草」1939（昭和14）年6月

檀 一雄（だん かずお）

檀一雄「太郎生後九十四日」額（複製）

映画「火宅の人」ポスター 1986（昭和61）年 東映

写真パネル 能古島の草庵「月壺洞」にて 1975（昭和50）年

檀一雄「旅立ち」原稿（複製）

檀一雄『リツ子・その愛』『リツ子・その死』1950（昭和25）年4月 作品社

檀一雄「微笑」（『火宅の人』第1章）原稿（複製）

檀一雄『火宅の人』1975（昭和50）年11月 新潮社

檀一雄『火宅の人』特装本 1979（昭和54）年6月 新潮社

映画「火宅の人」パンフレット 1986（昭和61）年 東映

檀一雄『長恨歌』1951（昭和26）年3月 文藝春秋新社

檀一雄『真説石川五右衛門』1951（昭和26）年9月 新潮社

玉井徳太郎「少年猿飛佐助」新聞連載挿絵原画

檀一雄『少年猿飛佐助 天狗の巻』1957（昭和27）年 東京創元社

檀一雄『少年猿飛佐助 術くらべの巻』1957（昭和27）年 東京創元社

檀一雄『少年猿飛佐助 霧の巻』1957（昭和27）年 東京創元社

檀一雄『少年猿飛佐助 霧の巻』1957（昭和27）年 東京創元社

愛用のワインボトルの籠

檀一雄『檀流クッキング』1970（昭和45）年7月 サンケイ新聞社

山本周五郎（やまもと しゅうごろう）

写真パネル 秋山青磁 撮影
映画「五瓣の椿」ポスター 1964（昭和39）年 松竹
映画「赤ひげ」ポスター 1965（昭和40）年 東宝
映画「さぶ」ポスター（昭和）年
山本周五郎『赤ひげ診療譚』1959（昭和34）年2月 文藝春秋新社
山本周五郎『さぶ』1963（昭和38）年8月 新潮社
映画「どですかでん」ポスター・パンフレット 1970（昭和45）年 東宝
山本周五郎『季節のない街』1962（昭和37）年12月 文藝春秋新社
山本周五郎「夏草戦記」原稿〈複製〉
山本周五郎『夏草戦記』1945（昭和20）年3月 八雲書店
山本周五郎『山彦乙女』1952（昭和27）年2月 朝日新聞社
山本周五郎『甲州小説集』1974（昭和49）年8月 実業之日本社
山本周五郎「わが野鳥たち」原稿〈複製〉
山本周五郎「青べか物語」原稿
山本周五郎「青べか物語」原稿〈複製〉原本 県立神奈川近代文学館蔵
山本周五郎『青べか物語』1961（昭和36）年1月 文藝春秋新社

深沢七郎（ふかさわ しちろう）

深沢七郎 今川焼屋「夢屋」ポスター
写真パネル ギターリストの頃
写真パネル 1957（昭和32）年1月
写真パネル 映画「笛吹川」のロケの折に、坊ヶ峯で木下恵介監督（右）と、1965（昭和30）年
写真パネル 1976（昭和51）年4月6日、笛吹市石和町の甲運亭にて
写真パネル 夢屋にて 佐藤真樹 撮影
深沢七郎選集出版記念ギターリサイタル ポスター 1968年
深沢七郎「檀山節考」原稿〈複製〉
「中央公論」第71年第12号 1956（昭和31）年11月
深沢七郎『檀山節考』1957（昭和32）年2月 中央公論社
『檀山節考』出版記念会次第
映画「檀山節考」プログラム 1958（昭和33）年4月 映画タイムス社
映画「檀山節考」ポスター・パンフレット 1983年
深沢七郎「笛吹川」原稿〈複製〉
深沢七郎『笛吹川』1958（昭和33）年4月 中央公論社
深沢七郎作 井伏鱒二に贈った将棋駒台
深沢七郎『甲州子守唄』1965（昭和40）年3月 講談社
深沢七郎「言わなければよかったのに日記」原稿〈複製〉
深沢七郎『言わなければよかったのに日記』1968（昭和43）年3月
深沢七郎 京谷秀夫宛葉書 1961（昭和36）年10月12日消印

山崎方代（やまざき ほうだい）

山崎方代「ふるさとの右左口郵は骨壺の底にゆられて吾がかえる村」幅
山崎方代「不二が笑つてゐる石が笑つてゐる笛吹川がつぶやいてゐる」幅
山崎方代「方代の一日が暮れて朝が来て又ふあふあと日は闇けてゆく」幅
山崎方代「茶の花の咲ける小径をらんらん少女が一人今降りて来る」幅
山崎方代「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」幅
山崎方代「おそろしきこの夜の山崎方代を鏡の奥につき落とすべし」幅
山崎方代「詩一つ」額装
写真パネル 湯川晃敏氏撮影
山崎方代「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」短冊
山崎方代「フランソワ・ヴィヨンの詩鈔ふところに一ツ木町を追われゆくなり」色紙

山崎方代「ある朝の出来ごとでしたこおろぎがあがかけ茶碗とび越えゆけり」扇面色紙
山崎方代「方代の一日が暮れて朝が来て又ふあふあと日が闇けてゆく」色紙
山崎方代「ふるさとの右左口郵は骨壺の底にゆられてあが帰る村」色紙
山崎方代「櫃の木は苗のうちより名木のそしりを受けて伸びてゆくなり」色紙
山崎方代「まつ黒くすみわたる馬の目の中に釜無川が流れている」短冊
山崎方代「右の瞳をつむりて弓の糸を引く蛙のごとき晩年なりき」短冊
山崎方代「茶ぶ台の上の土瓶に心中をうちあけてより楽になりたり」短冊
山崎方代「冬の日が真綿のやうに射しこんで大正三年も遠くなりたり」短冊
山崎方代「わが歌の秘密」草稿 その1（複製）
方代旧蔵『ヴィヨン詩鈔』1948（昭和23）年11月 全国書房
方代愛用の品 拡大鏡 眼鏡 万年筆 酒瓶 茶碗
山崎方代『方代』1955（昭和30）年10月 山上社
山崎方代『こおろぎ』1980（昭和55）年11月 短歌新聞社

中村星湖（なかむら せいこ）

中村星湖「少年行」原稿（複製）
「早稲田文学」第18号 1907（明治40）年5月
中村星湖『少年行』現代代表作叢書第12篇 1915（大正4）年10月 植竹書院
中村星湖「幸ひはこゝにこそ住め朝にたち夕かゝよふ富士やまの裾 昭和三十三年初秋」色紙
昭和三十三年初秋
鈴木三重吉 中村星湖宛書簡 1929（昭和4）年9月7日
「赤い鳥」第13巻第3号 1924（大正13）年9月
中村星湖「島村抱月の話」原稿

前田 晁（まえだ あきら）

田山花袋筆「文章世界」創刊号立案（複製）
小出楯重画「文章世界」第15巻第11号表紙原画（複製）1920（大正9）年11月
「人物評論」第1年第10号 1933（昭和8）年12月
前田晁『少年国史物語』原稿（複製）
三木露風 前田木城宛書簡 1909（明治42）年2月4日

三井甲之（みつい こうし）

「アカネ」創刊号表紙原案 1908（明治41）年2月
伊藤左千夫 三井甲之宛書簡 年不明11月21日
長塚節 三井甲之宛書簡 1908（明治41）年（推定）1月8日（複製）
三井甲之訳『ファウスト』1930（昭和5）年
三井甲之愛用の品 筆立・眼鏡・懐中時計・煙草入れ

中里介山（なかざと かいざん）

中里介山「大菩薩峠 白骨の巻」原稿（複製）原本 日本近代文学館蔵
中里介山「大菩薩峠 他生の巻」原稿（複製）原本 日本近代文学館蔵
中里介山「大菩薩峠 めいろの巻」新聞切り抜き
中里介山『大菩薩峠』1918（大正7）年11月 玉流堂
中里介山『大菩薩峠』1919（大正8）年4月 玉流堂
『石井鶴三挿絵集』第1巻 1934（昭和9）年11月 光人社
「大菩薩峠」リーフレット 1951（昭和26）年1月 新国劇初春公演 名古屋御園座
「隣人之友」通巻84号 1933（昭和8）年12月

伊藤左千夫（いとう さちお）と山梨の歌人たち

「馬酔木」第3巻第2号 1906（明治39）年2月
神奈桃村「神奈桃村日記」1906（明治39）年

伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1906（明治39）年8月3日消印
伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1906（明治39）年11月11日
神奈桃村 岡千里宛葉書 年不詳 3月10日
「馬酔木」第3巻第6号 1906（明治39）年10月（復刻）
「アラノギ」第2巻第1号 1909（明治42）年9月
伊藤左千夫「敷妙の家のうちとの物みなのおよきにきほひ咲ける花かも」短冊
神奈桃村「岩窟に安置されたる百体の石の看音見てまわりけり」短冊
日原無限「時雨空霽れなむとする雲の色彼の雲の色よ君が心に」一枚物
日原無限ほか「檜會（題苔）」原稿
岡千里「あかつきを轉りそめて落椿地上に赤くぬれにゐれたり」短冊
岡千里「糸さくら風にちりつゝくれなゐのつばきはいたみたまたまにおつ」短冊

秋山秋紅蓼（あきやま しゅうこうりょう）

秋山秋紅蓼自画賛「朝は花を一輪さしてこゝろ定る」色紙
秋山秋紅蓼『兵隊と桜』1940（昭和15）年1月 沙羅書店
秋山秋紅蓼「俳句四格調の説」原稿（複製）
秋山秋紅蓼「チュリップ」原稿
秋山秋紅蓼「ゆどうふ」原稿
秋山秋紅蓼「樺大樹を一本もち富士の白さが真向う」短冊
秋山秋紅蓼「ふるさと」草稿（複製）
秋山秋紅蓼素描「わびすけ」1955（昭和30）年2月20日

田中冬二（たなか ふゆじ）

田中冬二『青い夜道』1929（昭和4）年12月 第一書房
田中冬二「冬の日」草稿
田中冬二『若葉雨』自筆句集（折帖）1970（昭和45）年5月記
田中冬二愛用の品 眼鏡・万年筆
田中冬二「奈良田にて」色紙（複製）
田中冬二 深沢正志宛書簡 1964（昭和39）年4月9日（複製）
田中冬二「裾花川の瀬音—詩人津村信夫の思い出—」原稿

木々高太郎（きぎ たかたろう）

「新青年」第15巻第13号 1934（昭和9）年11月
木々高太郎「美の悲劇」原稿（複製）
木々高太郎「医学生と首」挿絵原画
木々高太郎『眠り人形』1935（昭和10）年4月 春秋社
木々高太郎「笛吹 —或るアナキストの死」原稿（複製）
木々高太郎『笛吹』1948（昭和23）年3月 世界社
木々高太郎「書くということ」原稿
江戸川乱歩 木々高太郎宛書簡 1935（昭和10）年8月8日
松本清張 木々高太郎宛書簡 1952（昭和27）年8月5日
林麟『頭のよくなる本』（カッパ・ブックス）1960（昭和35）年10月25日9版（初版同年10月10日）
光文社

小尾十三（おび じゅうぞう）

「文藝春秋」第22巻第12号 1944（昭和19）年12月
小尾十三『雑巾先生』1945（昭和20）年2月 満洲文藝春秋社（復刻）
小尾十三旧蔵 芥川賞記念品の腕時計
小尾十三「母への反抗時代」原稿（複製）
小尾十三「親子だるま」原稿

村岡花子（むらおか はなこ）

村岡花子旧蔵 モンゴメリ『ANNE OF GREEN GABLES』1908年〈復刻〉
村岡花子『赤毛のアン』翻訳原稿〈複製〉
村岡花子『赤毛のアン』1952（昭和27）年5月 三笠書房
「家庭」第2巻第1号 1931（昭和6）年1月
村岡花子『随筆集 心の饗宴』1947（昭和22）年11月 花書房
村岡花子「クリスマスのおもいで」原稿
『村岡花子童話集 1年生』1941（昭和16）年1月 文昭社

徳永寿美子（とくなが すみこ）

徳永寿美子『おかあさんのおひざ』1953（昭和28）年4月 金の星社
徳永寿美子「小公子」原稿〈複製〉
徳永寿美子『小公子』1956（昭和31）年1月 偕成社
徳永寿美子「子供と童話」草稿
「母」第6年第8号 1920（大正9）年8月〈複製〉原本 成蹊学園学園史料室蔵
徳永寿美子『薔薇の踊り子』1921（大正10）年2月 アルス〈複製〉
徳永寿美子「甲斐のくに七里が岩のいわつつじあやに咲きけんう月のまひる」短冊

八木義徳（やぎ よしのり）

八木義徳「きげんのいい男」原稿
八木義徳「灰色の海にぼうぼうと鳴る霧笛の音によって私はチャイコフスキーの音楽よりも先に北方の憂愁（トスカ）を知った」色紙
『八木義徳全集』第1巻 1990（平成2）年3月 福武書店 妻正子への献辞入り
八木義徳「甲州と私」原稿
「日本文学者」創刊号 1944（昭和19）年4月
八木義徳『母子鎮魂』1948（昭和23）年3月 世界社
八木義徳『風祭』1976（昭和51）年8月 河出書房新社

武田泰淳（たけだ たいじゅん）

武田泰淳「小事」原稿
「海」第1巻第5号 1969（昭和44）年10月
武田泰淳『富士』1971（昭和46）年11月 中央公論社
司修『富士』挿絵原画エッチング
武田泰淳「わが子キリスト」原稿〈複製〉原本 日本近代文学館蔵
武田泰淳『わが子キリスト』1968（昭和43）年12月 講談社

李良枝（イ・ヤンジ）

愛用の筆筒、文具類
「群像」1982（昭和57）年11月
李良枝『由熙』1989（平成元）年2月 講談社
芥川賞正賞の記念品
李良枝「かずきめ」草稿
李良枝『かずきめ』1983（昭和58）年9月 講談社
李良枝「あにごぜ」草稿
李良枝「私の『ゲーテとの対話』」草稿
李良枝「石の聲」草稿
『李良枝全集』1993（平成5）年5月 講談社

辻 邦生（つじ くにお）と山梨

「海」創刊特大号 1969（昭和44）年7月
辻邦生「埴谷雄高氏との出会い」原稿
「海」1976（昭和51）年7月
「新潮」1982（昭和57）年2月
辻邦生『銀杏散りやまず』1989（平成元）年9月 新潮社
「銀杏散りやまず」モノオペラ パンフレット
辻邦生 高室陽二郎宛書簡 1989（平成元）年11月4日
辻邦生『西行花伝』1995（平成7）年4月 新潮社

第3室 芥川龍之介

【大川の水（誕生・少年期）】

芥川龍之介「義仲論」原稿「東京府立第三中学校学友会雑誌」1910（明治43）年2月掲載
「東京府立第三中学校学友会雑誌」第15号 1910（明治43）年2月
中学校1年生の時の作文
暑中休暇中の日記 1904（明治37）年7月～8月
水泳帽
伯母ふき筆 長唄稽古本
芥川龍之介 芥川道章宛葉書 1910（明治43）年5月25日
「西洋史」聴講ノート

【空中の火花（文壇登場）】

菅虎雄筆「我鬼窟」扁額〈複製〉
芥川龍之介「鼻」草稿〈複製〉
「新思潮」創刊号 1916（大正5）年2月
夏目漱石『社会と自分』1915（大正4）年11月 実業之日本社
「新思潮」第1年第6号表紙・奥付上段原案
芥川龍之介「葬儀の記」原稿〈複製〉
芥川龍之介「寒山拾得」草稿
芥川龍之介『傀儡師』1919（大正8）年1月 新潮社
芥川龍之介「妙な話」草稿
芥川龍之介『点心』1923（大正11）年5月 金星堂
芥川龍之介『支那遊記』1925（大正14）年11月 改造社
芥川龍之介「秋」草稿

【ぼんやりした不安（苦悩と死）】

芥川龍之介筆「澄江堂十首」卷子〈複製〉原本 天理大学附属天理図書館蔵
『近代日本文藝読本』全5巻 1925（大正14）年11月 興文社
芥川龍之介『湖南の扇』1927（昭和2）年6月 文藝春秋社出版部
芥川龍之介「文芸的な、余りに文芸的な」原稿〈複製〉
芥川龍之介「或阿呆の一生」原稿〈複製〉
『芥川龍之介全集』（1934年岩波書店）予約募集の凸版

【書画の魅力】

芥川龍之介 素描「亀」
芥川龍之介 水彩画「花」
芥川龍之介 水彩画 1909（明治42）年・1910（明治43）年
芥川龍之介「紙窓風漸瀝」額装

芥川龍之介 水彩画 1910 (明治43) 年
芥川龍之介 菅虎雄宛書簡 1913 (大正2) 年11月19日
谷崎潤一郎宛書簡軸装 1922 (大正11) 年 (推定) 6月4日
芥川龍之介 西村貞吉宛書簡 1921 (大正10) 年7月21日 (推定)

【芥川の俳句】

芥川龍之介 俳句草稿「青蛙おのれもペンキ塗りたてか」など
芥川龍之介「黒南風」俳句草稿
芥川龍之介「木がらしの海吹き風げるたまゆらや」他俳句草稿
芥川龍之介 飯田蛇笏宛書簡 1923 (大正12) 年12月1日 (複製)
飯田蛇笏 芥川龍之介宛書簡 1926 (昭和元) 年12月29日 (複製) 原本 個人蔵
芥川龍之介「花火より遠き人ありと思ひけり」ほか俳句草稿
芥川龍之介「紙巻の煙の垂るる夜長かな」ほか俳句草稿
芥川龍之介「みぞるるや犬の来てねる炭俵」ほか俳句草稿
「ホトトギス」1918 (大正7) 年9月
「ホトトギス」1919 (大正8) 年3月
芥川龍之介『梅・馬・鶯』1926 (大正15) 年12月 新潮社 (復刻)
「雲母」1927 (昭和2) 年9月号
『澄江堂句集』1927 (昭和2) 年12月 文芸春秋社

【芥川と山梨】

芥川龍之介「藤の花軒端の苔の老いにけり」幅
芥川龍之介「水虎晩帰之図」額 (複製)
芥川龍之介「槍ヶ岳紀行」ノート 1909 (明治42) 年夏
芥川龍之介 山本喜誉司宛書簡 1910 (明治43) 年10月14日 (複製)
芥川龍之介 山梨夏期大学講演メモ (複製)

【羅生門】

「羅生門」関連ノート (複製)
芥川龍之介『羅生門』1917 (大正6) 年5月 阿蘭陀書房 (復刻)
芥川龍之介『鼻』1918 (大正7) 年7月 春陽堂 (復刻)

【友への手紙】

芥川龍之介 井川恭宛書簡 1914 (大正3) 年1月21日 (複製)
原本 大阪市立大学学術情報総合センター恒藤記念室蔵

【夏目漱石の手紙】

夏目漱石 久米正雄・芥川龍之介宛書簡 1918 (大正7) 年8月21日 (複製)

【芥川と児童文学】

「赤い鳥」創刊号 1918 (大正7) 年7月 (復刻)
芥川龍之介 鈴木三重吉宛書簡 1919 (大正8) 年11月9日
芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿 (複製)
芥川龍之介「杜子春」原稿 (複製)
芥川龍之介『三つの宝』1928 (昭和3) 年6月 改造社 (復刻)

愛用のペーパーナイフ・財布
芥川龍之介作 楽焼皿「小心火盗」
芥川龍之介旧蔵 手帳